

## 兵庫県におけるトウネズミモチの植栽分布

橋本佳延<sup>1)</sup>・服部保<sup>1)\*</sup>

### Distribution of Planting Sites of *Ligustrum lucidum* (Oleaceae) in Hyogo Prefecture

Yoshinobu HASHIMOTO<sup>1)</sup> and Tamotsu HATTORI<sup>1)\*</sup>

#### 要 旨

兵庫県におけるトウネズミモチ植栽地の分布位置および植栽量、土地利用形態を調査した結果、288地点で本種の植栽が確認され、うち100個体以上植栽されている大量植栽地は73地点だった。植栽地は兵庫県の全域でみられたものの、大量植栽地は瀬戸内側の阪神間に偏り、中山間部ではほとんどみられなかった。植栽地の土地利用形態では、道路の94地点、戸建て住宅の48地点、公園の47地点の順に多く、このうち大量植栽地では道路の27地点、戸建て住宅の13地点、公園の11地点、工場緑地の10地点の順に多かった。以上のことより、兵庫県下ではトウネズミモチは阪神間を中心に広範囲に大量に植栽され、その多くは公共施設や工場緑地などの大規模施設の植栽であることがわかった。

**キーワード：**トウネズミモチ、外来樹木、植栽地の分布、侵略的外来種、植栽量、土地利用形態

#### はじめに

トウネズミモチ (*Ligustrum lucidum*) は、中国原産のモクセイ科イボタノキ属の照葉小高木で、近年、国内各地の多くの都市の空地、都市林、都市河川等に逸出していることが確認されている(唐沢, 1978; 石田ほか, 1998; 吉永・亀山, 2001; 橋本ほか, 2003; 橋本ほか, 2005)。本種は少なくともオーストラリア、ブラジル、南アフリカ、ニュージーランド、アルゼンチン、ポルトガルの6か国において侵略的外来植物として注視されている(吉岡 2005)。また、その生態は、1) 萌芽力が旺盛、2) 乾燥・被陰・潮風・火・大気汚染に対する耐性が強い、3) 生長が極めて速い、4) 鳥散布型種子を大量に生産し(写真1、2) 散布能力も高い、といった侵略性を示すおそれのある特性を有していることから、兵庫県においても侵略的外来種として監視すべき種といえる。橋本ほか(2005)は、トウネズミモチの供給範囲は東北地方から九州地方にかけて広く、国内におけるトウネズミモチの1981年から2003年にかけての供給量の推定値は約

1500万本に達していることを報告しているが、兵庫県下での植栽量や種子供給源となる植栽地の分布状況の詳細については不明である。

本研究ではトウネズミモチを対象として兵庫県下におけるその植栽地の分布と生育量を把握し、外来植物対策のための基礎資料をとりまとめたので報告する。

#### 調査方法

トウネズミモチの植栽が予測される兵庫県下の公園、学校、工場緑地、道路などを中心にトウネズミモチの分布を現地踏査により確認した(写真3、4、5)。

調査項目はトウネズミモチの分布位置、分布地点におけるトウネズミモチの個体数の概数、分布地点の土地利用形態の3項目とした。分布地点位置は、現地調査時に1/5万の地形図上に記録したのち、室内にてデジタル地図(Super Mapple Digital ver.3)を用いて緯度・経度(東京測地系)を読み取った。トウネズミモチの個体

<sup>1)</sup> 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 Division of Ecological Restoration, Museum of Nature and Human Activities, Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

\* 兼任: 兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目 Institute of Natural and Environmental Sciences, University of Hyogo; Yayoigaoka 6, Sanda, 669-1546 Japan

数の概数は現地にて計数し、0個体、1～9個体、10～99個体、100～999個体、1000個体以上の5つの階級に分けて記録した。調査地の土地利用の形態は、工場緑地、道路、学校、公園、戸建て住宅、集合住宅、市街地、社寺、育苗畑、その他公共施設の10に区分し、現地調査およびデジタル地図（Super Mapple Digital ver.3）を用いて判定した。なお、市街地は建物が密集する商業および中心業務地区を対象とした。

なお、調査は2004年5月から2005年2月にかけて実施した。

## 結 果

### 県下での植栽状況

調査の結果、現地調査により288地点でトウネズミモチの植栽が確認された（表1）。

個体数階級別にみると、植栽地における個体数が1～9個体の地点が114地点、10～99個体の地点が101地点、100～999個体の地点が64地点、1000個体以上の地点が9地点で、1～9個体の地点が最も多かったが、100個体以上の大量植栽地も確認された。

表1 地形図図幅ごとの植栽地点数および個体数階級の内訳。小計の（ ）は総地点数に対する割合を示す。

図幅名	植栽 地点数	個体数階級別の植栽地点数			
		1～9 個体	10～99 個体	100～999 個体	1000 個体以上
<b>瀬戸内側</b>					
鳴門海峡	0	0	0	0	0
由良	1	0	1	0	0
洲本	1	1	0	0	0
明石	0	0	0	0	0
須磨	13	3	3	4	3
播州赤穂	16	2	5	7	2
姫路	11	3	1	7	0
高砂	22	6	7	9	0
神戸	66	31	26	8	1
大阪西北部	31	14	11	4	2
上郡	2	1	1	0	0
龍野	7	2	5	0	0
北条	36	21	15	0	0
三田	27	7	4	16	0
広根	17	13	3	1	0
<b>中山間部</b>					
山崎	0	0	0	0	0
生野	8	4	4	0	0
佐用	0	0	0	0	0
篠山	2	0	1	1	0
園部	3	0	1	2	0
大屋市場	0	0	0	0	0
但馬竹田	2	0	1	1	0
福知山	1	0	1	0	0
<b>北部</b>					
村岡	4	3	1	0	0
出石	6	1	4	1	0
浜坂	9	2	5	1	1
香住	3	0	1	2	0
城崎	0	0	0	0	0
<b>小計</b>					
瀬戸内側	250 (86.8)	104 (91.2)	82 (80.2)	56 (87.5)	8 (88.9)
中山間部	16 ( 5.6)	4 ( 3.5)	8 ( 7.9)	4 ( 6.3)	0 ( 0)
北部	22 ( 7.6)	6 ( 5.3)	11 (10.9)	4 ( 6.3)	1 (11.1)
<b>総計</b>	<b>288 ( 100)</b>	<b>114 ( 100)</b>	<b>101 ( 100)</b>	<b>64 ( 100)</b>	<b>9 ( 100)</b>

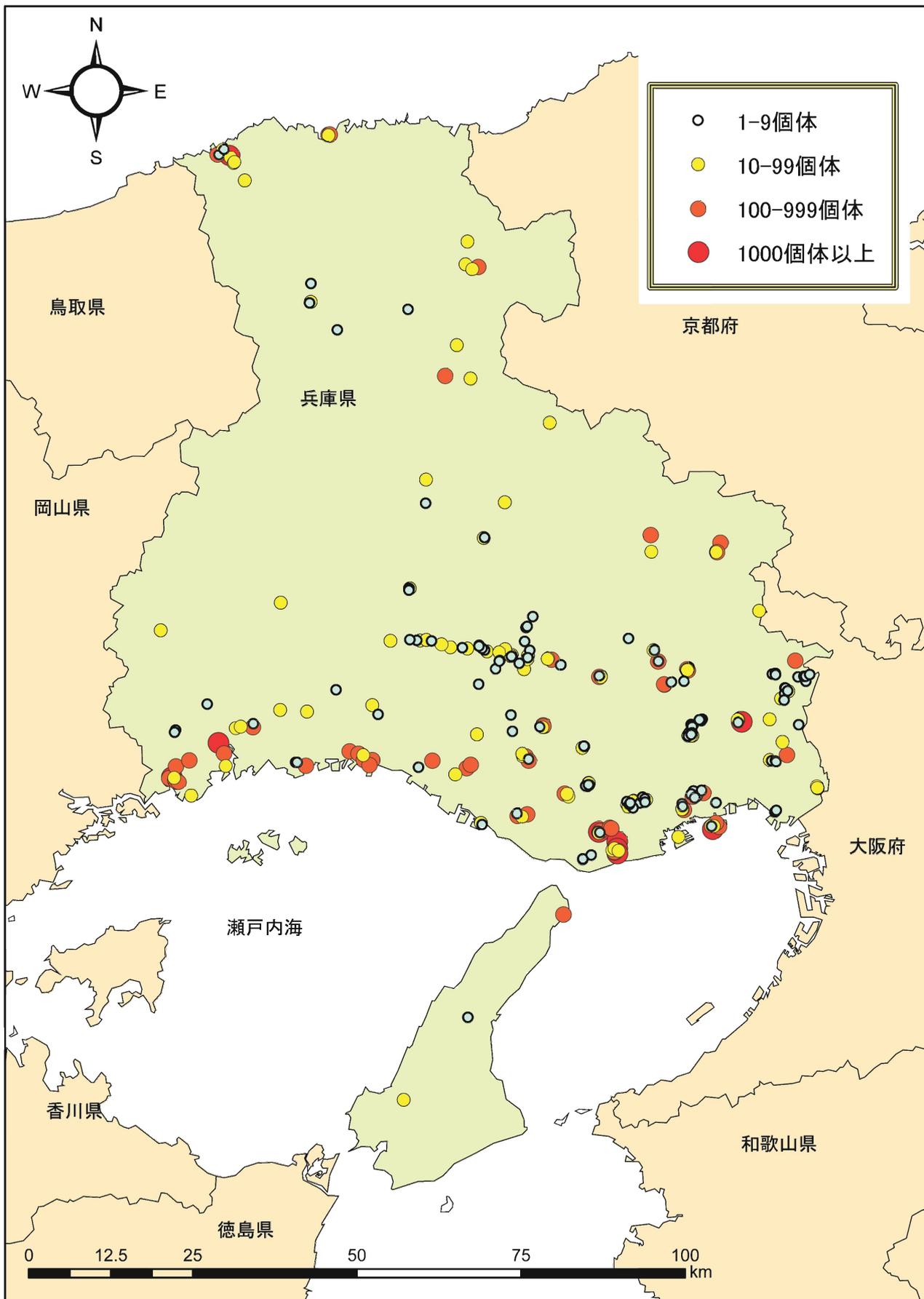


図1 トウネズミモチの植栽地の分布と植栽地における植栽量

トウネズミモチ植栽地点位置およびその植栽量を図1に示した。トウネズミモチの植栽分布をみると、植栽地は兵庫県の全域でみられるものの、100個体以上の植栽が認められた調査地点は瀬戸内側に偏ってみられ、人口の少ない中山間部では植栽地の地点数は少なかった(図1)。

### 植栽地点の土地利用形態と植栽量の関係

植栽地の土地利用と植栽量について図2に示した。植栽地の土地利用をみると、道路が94地点と最も多く、次いで戸建て住宅の48地点、公園の47地点、工場緑地の36地点が多かった。植栽量別にみると、1000個体以上の植栽地の土地利用では道路が6地点と最も多く、その他には公園、市街地、育苗畑がみられた。100~999個体の植栽地の土地利用では道路の21地点が最も多く、次いで戸建て住宅の13地点、工場緑地と公園の10地点が多かった。10~99個体の植栽地では道路の34地点が最も多く、次いで公園の20地点、工場緑地の15地点が多かった。1~9個体の植栽地の土地利用では道路の33地点が最も多く、次いで戸建て住宅の24地点、公園の16地点が多かった。

## 考 察

本調査により、トウネズミモチが100個体以上植栽される大量植栽地の存在が明らかになった(表1)。大量植栽地の地点数は73地点で、全植栽地点数(288地点)の約1/4を占めることから、兵庫県ではトウネズミモチは1地点に大量に植栽される傾向にあるといえる。

また植栽されたトウネズミモチの分布は、兵庫県全域にわたってみられたが、大量植栽地は瀬戸内側に64地点(約88%)と偏り、兵庫県北部や中山間部では9地点(約12%)と少なかった(図1, 表1)。これは多雪地で

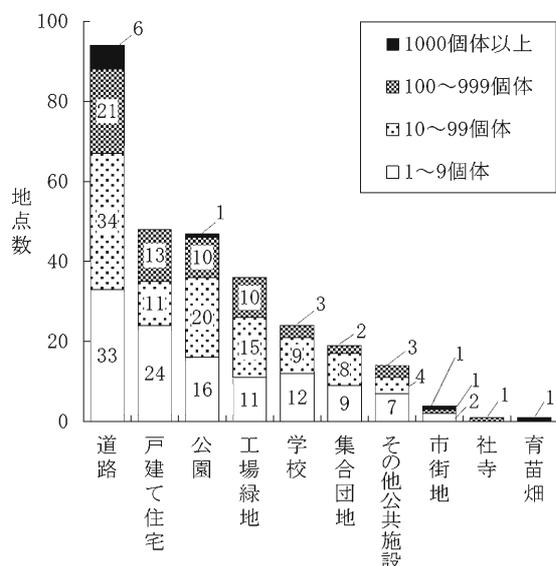


図2 トウネズミモチ植栽地の土地利用形態

ある兵庫県北部や中山間部ではトウネズミモチの利用が少なく、高温寡雪な瀬戸内側での利用が多いためと考えられた。

トウネズミモチの大量植栽地のうち48地点(大量植栽地の約66%)は道路、公園、工場緑地の3つの土地利用区分にみられ、その多くが公共施設や大規模施設において造成されているといえる(図2)。

これらのことから、本種の効果的な拡散防止対策を進めるには、公共性の高い施設より率先して周辺環境への逸出を防止するための管理に取り組むことが必要であるといえ、特にその取り組みは大量植栽地の分布が多い瀬戸内側で急務といえる。

## 謝 辞

本調査を進めるにあたって、赤松弘治氏、岩崎 寛氏、江間 薫氏、梶原洋一氏、甘中照雄氏、岸本正幸氏、木村 仁氏、栃本大介氏、菅村定昌氏、高比良響氏、竹田正義氏、田村 統氏、中澤博子氏、盛谷 浩氏、山本一清氏のみなさまには現地調査にご協力いただきました。また入力作業では浦家千洋子氏に、分布図作成では石原康宏氏にご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

## 引用文献

橋本佳延・服部 保・石田弘明・赤松弘治・田村和也(2003) 猪名川におけるトウネズミモチの分布。人と自然 no.14, 55-61.  
 橋本佳延, 服部 保, 石田弘明, 戸井可名子(2005) 国内における外来樹木トウネズミモチの野外逸出。ランドスケープ研究, 68(5), 713-716.  
 石田弘明・服部 保・山戸美智子(1998) 都市林の生態学的研究II。三田市フラワータウンにおける緑化樹木の孤立二次林への侵入。人と自然, no.9, 27-32.  
 唐沢孝一(1978) 都市における果実食鳥の食性と種子散布に関する研究。鳥, 27, 1-20.  
 吉永知恵美・亀山 章(2001) 都市におけるトウネズミモチ(*Ligustrum lucidum* Ait.)の分布拡大の実態。日本緑化工学会誌, 27, 44-49.  
 吉岡俊哉(2005) 造園植物における予備的侵略性リスク評価の試み。ランドスケープ研究, 68(4), 296-300.

(2005年7月5日受付)

(2005年11月1日受理)



写真1 トウネズミモチの花序



写真2 トウネズミモチの果序



写真3 集合住宅地の敷地境界に列植されたトウネズミモチ



写真4 公園で単木で植栽されたトウネズミモチ



写真5 緑地の境界に植栽されたトウネズミモチの生垣